

<導入方法（マニュアルから抜粋）>

1.1 GUI 実行モードのセットアップ方法

1.1.1 ファイルのコピー

まず、弊社ウェブサイト (<http://www.dataminetech.co.jp>) からダウンロードしたプロダクトファイル (DMT_TREEV1.3_buildyyyymmdd.zip) (yyyymmdd に年月日が入ります) を任意の読み書き可能なユーザーディレクトリにコピーし、そのディレクトリで解凍します。**ただし、ディレクトリパス名はすべて半角英数字のみで指定可能でなければならない点に注意してください。**

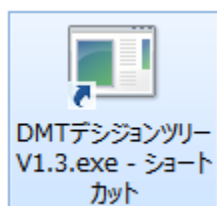
例えば、ユーザーディレクトリ "C:\¥Users¥ユーザープロファイル名" (ユーザープロファイル名の箇所は Windows ログインユーザー名) の中に DMT_TREEV1.3_buildyyyymmdd.zip ファイルをコピーしてその場所に解凍します。"DMT_TREEV1.3_buildyyyymmdd" という名前のディレクトリが生成され、その中に DMT デシジョンツリー V1.3.exe という名前のファイルが入っていることを確認します。



※ SAS ショートカット追記用_INITSTMT.txt,
WPS ワークベンチ起動設定用_INITSTMT.txt,
DMT_TREEV1.3_SAMPLERUN.sas
の3ファイルはコマンド実行モード設定用のファイルです。

1.1.2 ショートカットの作成

"DMT デシジョンツリーV1.3.exe" のショートカットをデスクトップに作成します。



ショートカットをダブルクリックして、以下の「メニュー」画面が表示されることを確認します。



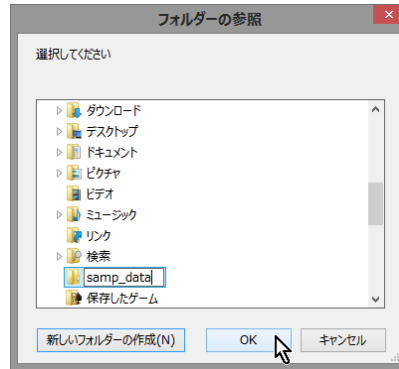
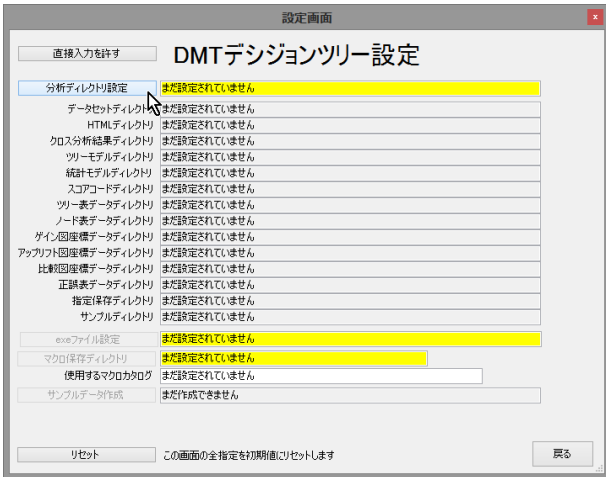
上記「メニュー」画面が表示されず、エラーが表示される場合は、GUI 画面の起動に必要なバージョンの .NET Framework 4.x が Windows マシンにインストールされていないことが原因の場合があります。マイクロソフト社のサイトから最新の .NET Framework 4.x を取得し、コンピュータにインストールした後、再度「メニュー」画面を起動してください。

1.1.3 初期設定



はじめて「メニュー」画面を起動した場合は、初期設定が必要 ボタンをクリックして「DMT デシジョンツリー設定」画面を開きます。

(1) 分析ディレクトリの設定



smp_data と名前をつけた後、 **OK** を押します。

分析ディレクトリ設定 を押して、アプリケーションで使用するデータ、モデルデータ、HTML出力、パラメータなどを保存するファイルの分析ルートディレクトリを指定します¹。デフォルトではデスクトップを初期ディレクトリとして **フォルダの参照** 画面が開きます。



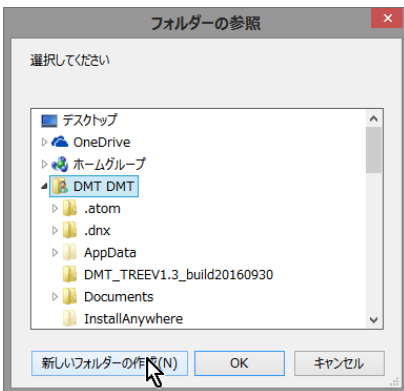
はい(Y) を押します。

ユーザディレクトリの下のデスクトップ (c:\Users\ユーザ\デスクトップ) やドキュメント (c:\Users\ユーザ\ドキュメント) に分析ディレクトリを作成してもかまいませんが、ここでは、ユーザディレクトリを選択しておいて、



OK を押して「DMT デシジョンツリー設定」画面に戻ります。

新しいフォルダの作成(M) を押し、ユーザディレクトリの下に新しいフォルダを作成します。



新しいフォルダに半角文字で名前をつけます。

(重要な注意) フォルダのパス名もすべて半角文字でなければなりません。全角文字が含まれる場合、エラーメッセージが出現しますので、指定し直してください)

(2) exe ファイル設定



次に、 **exeファイル設定** ボタンを 押して、導入され

¹ メニュー操作によりディレクトリ設定ができない場合は、代

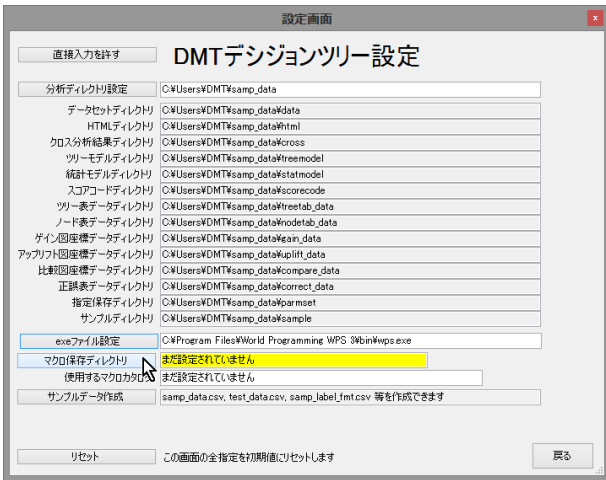
替手段として、 **直接入力を許す** を押し、ディレクトリパスをキーボード入力してから、 **設定** を押します。

ている SAS または WPS の実行ファイル (sas.exe または wps.exe) のパスを指定します。ファイル選択画面が C:\Program Files ディレクトリを初期ディレクトリとして開きます。

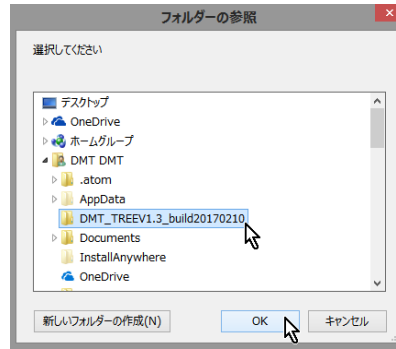
通常、sas.exe ファイルは、C:\Program Files\SASHome\SASFoundation\9.x\sas.exe (ここで、9.x は SAS バージョンを表します) にあり、wps.exe は、C:\Program Files\World Programming WPS 3\bin\wps.exe にあります。ファイル選択画面のディレクトリパスを辿って指定します。ただし、インストール時の設定によって、実際の exe ファイルのパスは異なる場合があります。

指定後、実行ファイルのバージョンチェックが行われ、完了すると **exeファイル設定** ボタンの表示が **exeファイル変更** に変化し、**マクロ保存ディレクトリ** ボタンが有効になります。

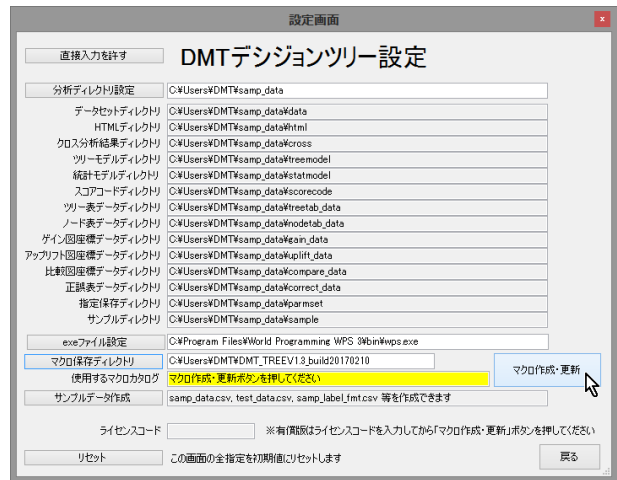
(3) マクロカタログファイル保存ディレクトリ設定



マクロ保存ディレクトリ ボタンを押して、DMT デジジョンツリーマクロカタログを保存するディレクトリを、すべて半角英数字のみのパス名で指定します。ディレクトリ選択画面が、C:\Users\ユーザープロファイル名を初期ディレクトリとして開きます。ここでは、C:\Users\ユーザープロファイル名\DMT_TREEV1.3_buildyyyymmdd ディレクトリを保存先ディレクトリに設定します。



(4) マクロカタログの作成



次に **マクロ作成・更新** ボタンを押します。マクロカタログを作成するかどうかの確認画面が表示されます。



はい(Y) を押します。

マクロカタログ作成中... のメッセージが出現します。



しばらくすると、終了のメッセージが表示されます。(※

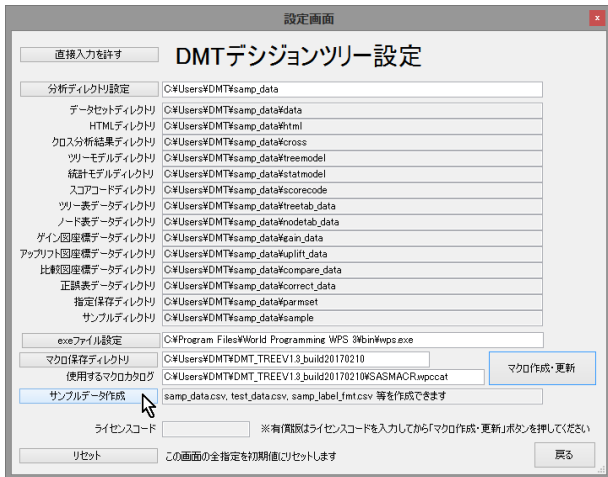
Data Mine Tech Ltd.

Data Bring New Insight to Your Business

マクロカタログの生成にはコンピュータ環境によっては、時間がかかる場合があります。)



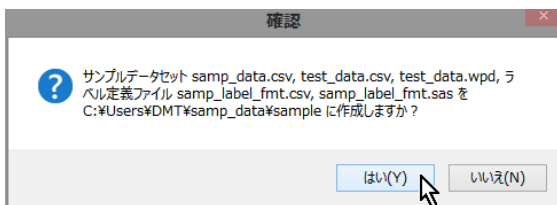
OK を押します。



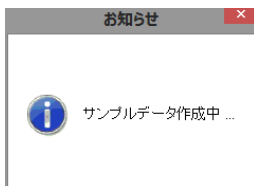
以上でマクロカタログの作成は終了です。

(5) サンプルデータの作成

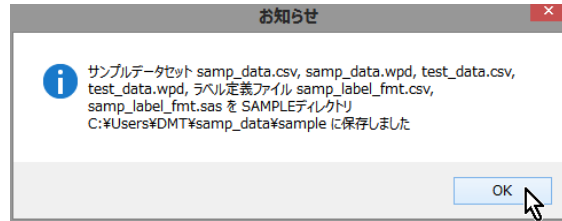
最後に、**サンプルデータの作成** を押し、**サンプルデータ** (CSV形式、および、WPSデータセット形式またはSASデータセット形式)、**サンプルラベルフォーマット定義** (CSV形式とSASコード形式)をSAMPLEディレクトリに作成しておきます。



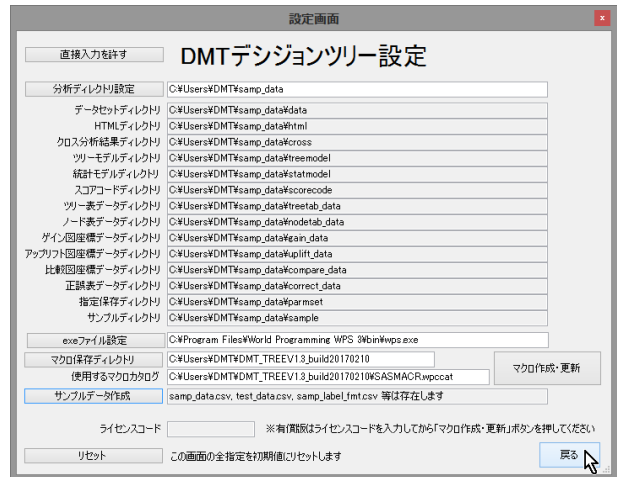
はい(Y) を押します。



サンプルデータ作成中のメッセージ画面が出現し、作成が終了すると画面は自動的に閉じます。



サンプルデータなどが生成されたというメッセージが出現します。OK を押して元の画面に戻ります。



以上で、GUI実行モードの初期設定は終了です。

戻る ボタンを押して、「メニュー」画面に戻ります。

※途中で問題が起きた場合は、**リセット** を押し、設定を最初からやり直してください。



「メニュー」画面が各分析画面を呼び出す画面項目が選択できる状態になっていることを確認すると、GUI実行モードの初期設定は完了です。

<以後、マニュアルの実行例を参照して例示を実行してください>